

# 解剖学特別講演会 II

演題：下垂体前葉細胞の胎生期機能発達

演者：野上晴雄

筑波大学医学医療系 生命医科学域 准教授

日時：2015 年2 月16日（月） 17:00-18 : 00

会場：イノベーション棟 8 階講堂

## 要旨：

下垂体前葉細胞は胎生後期に細胞種特異的転写因子の発現により次々と分化し、出生時にはすべての前葉細胞を免疫組織化学的に検出することができる。このうち成長ホルモン (GH) 細胞とプロラクチン (PRL) 細胞は、共に転写因子 pit-1 を発現することにより他の細胞系譜から分かれるが、齧歯類では pit-1 発現細胞が機能的に成熟して GH あるいは PRL 遺伝子発現に至るにはなお数日の発達段階が必要である。この過程を調節する主要な因子の一つは胎仔副腎の発達に伴って一過性に血中濃度が上昇するグルココルチコイドである。高濃度のグルココルチコイドは、下垂体に働いて GH 及び GH 放出ホルモン受容体遺伝子の発現を誘導すると同時に、PRL 細胞の機能を抑制する。副腎皮質の機能発達は下垂体の副腎皮質刺激ホルモンの分泌亢進の結果である。このように視床下部-下垂体-副腎系の機能的な成熟が、下垂体前葉の GH、PRL 細胞の発達を制御している。

連絡先：筑波大学医学医療系 野口雅之（内線 3750）